

## 評価指標の設定の考え方

1 評価指標の設定の考え方.....	1-1
1.1 評価指標・目標値(案)の設定.....	1-1
1.2 目標値(案)の考え方.....	1-2
1.2.1 公共交通の認知度.....	1-2
1.2.2 公共交通分担率.....	1-3
1.2.3 公共交通利用者数.....	1-4
1.2.4 MM シャトル収支率.....	1-5
1.2.5 市と連携した担い手確保に向けた取り組みの実施回数.....	1-6
1.2.6 新技術の導入検討に向けた会議での議題にした数.....	1-6

# 1 評価指標の設定の考え方

## 1.1 評価指標・目標値(案)の設定

武蔵村山市地域公共交通計画の推進に向けた進捗管理や目標の達成状況を評価するための評価指標・数値目標(案)は以下を想定している。

表 1-1 評価指標・数値目標(案)

目標	指標(案)		現状値	目標値	データ取得方法	評価時期
1. 公共交通の利用促進	公共交通の認知度	路線バス	17%	34%	武蔵村山 市民意識調査	武蔵村山市長期総合計画の改定の際に併せて実施
		MM シャトル	10%	20%		
		むらたく	2%	4%		
	公共交通分担率		14.9%	19.9%	武蔵村山 市民意識調査	武蔵村山市長期総合計画の改定の際に併せて実施
2. 公共交通の維持・まちづくりとの連携を強化	公共交通利用者数 (MM シャトル・むらたく利用者数の合計)		約 22 万人/年	約 30.5 万人/年	運行事業者	中間見直し、計画改定の際に実施
	MM シャトル収支率		28.1%	33.2%	運行事業者、 市資料	中間見直し、計画改定の際に実施
	市と連携した担い手確保に向けた取り組みの実施回数		0 回/年	1 回/年	市資料	中間見直し、計画改定の際に実施
3. 交通手段を選択できる環境づくり	新技術の導入検討に向けた会議での議題にした数		0 回/年	1 回/年	市資料	中間見直し、計画改定の際に実施

※年度毎の目標値は別途記載(予定)

## 1.2 目標値(案)の考え方

### 1.2.1 公共交通の認知度

令和6(2024)年度に実施した「公共交通に関する市民アンケート調査」の路線バス、MMシャトル、むらタクの認知度に関する回答のうち「バス路線のルート・ダイヤ又はむらタクの運行内容や利用方法について詳しく知っている」の回答率をそれぞれ2倍した数値を目標値とする。

上記の考え方に基づいて公共交通利用者数を算出した結果、路線バスの現状値を17%、目標値を34%、MMシャトルの現状値を10%、目標値を20%、むらタクの現状値を2%、目標値を4%とする。

<公共交通の認知度>

路線バス

17%×2倍=34% (目標値)

MMシャトル

10%×2倍=20% (目標値)

むらタク

2%×2倍=4% (目標値)

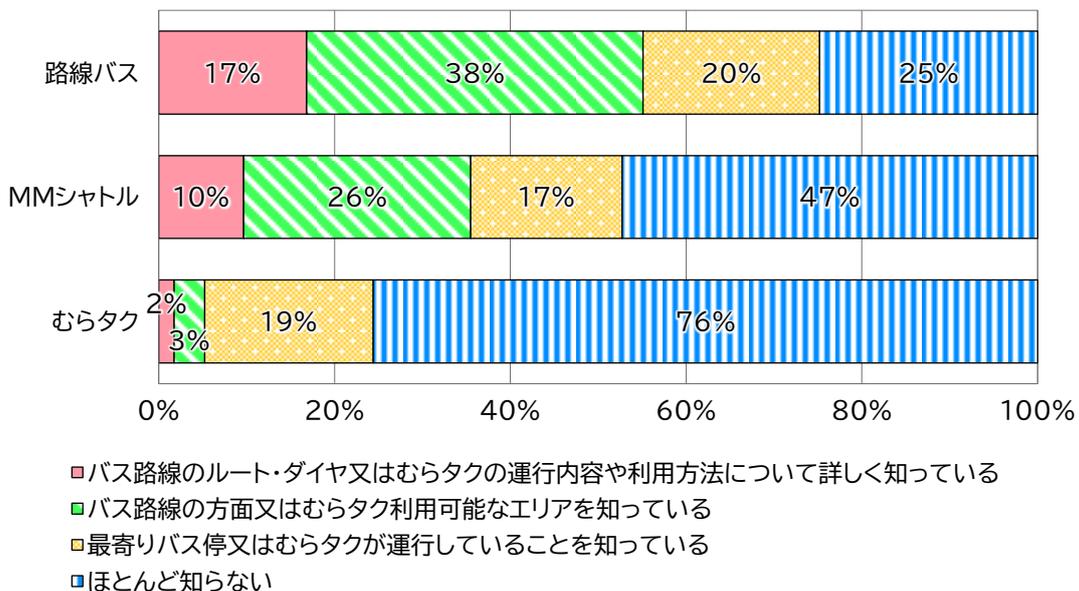


図 1.1 公共交通の認知度(R6 年度)

出典：公共交通に関する市民アンケート調査（令和6(2024)年度）

## 1.2.2 公共交通分担率

令和6（2024）年度に実施した「公共交通に関する市民アンケート調査」の通勤・通学時、通勤・通学以外の移動の際の行き帰りに使う交通手段のうち、路線バス、MMシャトル、むらタクを利用すると回答した方の回答数の合計を全回答数で除した数値を公共交通分担率とする。

通勤・通学時、通勤・通学以外で算出した公共交通分担率の平均値を現状値とする。また、現状値に5%加えた数値を目標値とする。

<公共交通分担率>

(通勤・通学時の公共交通分担率+通勤・通学以外の公共交通分担率) /2

(13.3%+16.6%) ÷2=14.9% (現状値)

<目標値の算定>

14.9%+5.0%=19.9% (目標値)

表 1-2 公共交通分担率

交通手段		回答数		割合	
		通勤・通学時	通勤・通学以外	通勤・通学時	通勤・通学以外
公共交通	路線バス	80	150	10.1%	12.2%
	MMシャトル	24	49	3.0%	4.0%
	むらタク	1	4	0.1%	0.3%
	計	105	203	13.3%	16.6%
徒歩		123	139	15.6%	11.3%
自転車		214	223	27.1%	18.2%
バイク・原付		22	17	2.8%	1.4%
鉄道・モノレール		135	121	17.1%	9.9%
タクシー		2	17	0.3%	1.4%
シェアサイクル		0	1	0.0%	0.1%
電動キックボード		1	1	0.1%	0.1%
自動車(自分で運転)		144	405	18.2%	33.0%
送迎(家族等による)		39	97	4.9%	7.9%
その他		5	2	0.6%	0.2%
合計		790	1226	100.0%	100.0%

v

出典：公共交通に関する市民アンケート調査（令和6（2024）年度）

※「公共交通に関する市民アンケート調査」では、問 2-1③、問 2-2④は複数回答の設問だが、公共交通分担率を算出する際は、回答数の合計で割り戻すこととする。

### 1.2.3 公共交通利用者数

MM シャトルとむらタクの利用者数を合算した値を数値目標の公共交通利用者数とする。

公共交通利用者数の数値目標の考え方として、MM シャトルとむらタクの利用者数を合算した令和6(2024)年度の年間利用者数と令和5(2023)年度の年間利用者数の差分と令和5(2023)年度の年間利用者数と令和4(2022)年度の年間利用者数の差分の平均したものを9倍した値を令和6(2024)年度の公共交通利用者数に加えた値を目標値とする。

上記の考え方にに基づき、現状値を約21万人/年、目標値を約30.5万人/年とする。

<現状値>

208,182人/年(令和6(2024)年度)

<公共交通利用者数の伸び>

$$((\text{令和6年度利用者数}/\text{令和5年度利用者数}) + \text{令和5年度利用者数}/\text{令和4年度利用者数})/2$$

$$((220,676\text{人/年} - 208,882\text{人/年}) + (208,882\text{人/年} - 201,907\text{人/年}))/2 = 9,384.5\text{人/年}$$

<目標値の算定>

$$220,676\text{人/年} \times 9,384.5\text{人/年} \times 9\text{年} = 305,137\text{人/年}$$
 (目標値)

表 1-3MM シャトル・むらタク年間利用者数の推移

年度	年間利用者数		公共交通利用者数(合計)	前年比較		備考
	MM シャトル※	むらタク		利用者数	前年比	
R1	267,069	3,498	270,567	-	-	
R2	171,955	2,979	174,934	-95,633	0.65	コロナによる大幅減
R3	197,786	3,774	201,560	26,626	1.15	コロナからの回復期
R4	190,751	11,156	201,907	347	1.00	コロナからの回復期
R5	196,225	12,657	208,882	6,975	1.03	
R6	208,182	12,494	220,676	11,794	1.06	
R15	286,622	18,515	305,137			

出典：庁内資料

※MM シャトルの利用者数は、東京都シルバーパス利用者を除く値である。

### 1.2.4 MM シャトル収支率

MM シャトルの収支率は、1.2.3 公共交通利用者数で算定した令和 15（2033）年度の MM シャトルの利用者数と令和元（2019）年度から令和 6（2024）年度の平均運賃から運行収入を算出することとする。運行経費は令和 6（2024）年度の運行経費と同値と仮定する。

平均運賃の考え方は、MM シャトルには大人、小人等により運賃が異なることから、令和元（2019）年度から令和 6（2024）年度の各年度の運行収入を輸送人員で割り戻し、各年度の運賃単価を算定したうえで、平均運賃を算出する。

令和 15（2033）年度の MM シャトルの利用者数 286,622 人/年に平均運賃 163 円を加算して運行収入を算定したうえで、運行収入を運行経費で割り戻し収支率を算定する。

上記の考え方にに基づき、現状値を 28.1%、目標値を 33.2%とする。

<現状値>

28.1%（令和 6（2024）年度）

<運行収入>

令和 15（20）年度利用者数×R 元（2019）～R6（2024）年度の平均運賃  
286,622 人/年×168 円＝45,859,440 円/年

<運行経費>

令和 6（2024）年度と同値と仮定  
138,333,655 円/年

<目標収支率の算定>

45,859,440 円/年÷138,333,655 円/年＝33.2%（目標値）

表 1-4MM シャトルの運行経費・運行収入等

年度	運行経費	運行収入等	運行経費補助金	輸送人員	1人当たり市負担	収支率	運賃単価
R1	163,610,994	36,900,744	133,124,420	267,069	498	22.6%	138
R2	162,658,945	25,591,077	135,000,000	171,955	785	15.7%	149
R3	177,008,225	31,438,059	110,000,000	197,786	556	17.8%	159
R4	131,043,681	34,723,851	96,319,830	190,751	505	26.5%	182
R5	133,329,623	31,799,621	101,530,002	196,225	517	23.9%	162
R6	138,333,655	38,936,107	99,397,548	208,182	477	28.1%	187
R15	138,333,655	45,859,440	92,474,215	286,622	323	33.2%	-
						平均運賃	163

出典：庁内資料

※MM シャトルの輸送人員は、東京都シルバーパス利用者を除く値である。

### 1.2.5 市と連携した担い手確保に向けた取り組みの実施回数

「市と連携した担い手確保に向けた取り組み」は、令和 6（2024）年度の段階では実施していない。  
そのため、本市と交通事業者が連携した、担い手確保に向けた取り組みを年 1 回は実施することを目標値とする。

### 1.2.6 新技術の導入検討に向けた会議での議題にした数

「新技術の導入検討に向けた会議での議題にした数」は、令和 6（2024）年度の段階では、会議の中で新技術の導入検討に向け議題にしたことがない。

そのため、新技術の導入検討については、会議の中で議題とすることを年 1 回は実施することを目標値とする。